



咽頭炎 ってなに?

どんな
病気?

感染症や口腔・鼻腔内の病気が原因で、口や鼻の奥の咽頭の粘膜が炎症を起こしている状態。

ウイルスや細菌への感染、誤飲による外傷などで急に発症する急性咽頭炎と、治療しても治りが悪く、再発を繰り返す慢性咽頭炎があります。

おもな
原因

急性タイプは、感染症が原因の場合が多く、慢性では基礎疾患が隠れていることも。

《急に発症する》

急性タイプのおもな原因

●異物や食べ物を 飲みこむ際に傷つける

気を付けたい犬

なんでも口にする犬や
がっついて食べる犬ふだんから誤飲する犬、食べ物を
一気に食べる犬などは、口にした
ものによっては咽頭を傷つけるの
で注意を。歯みがきガムを丸呑み
して咽頭炎になることも。

●ウイルスや 細菌による感染症

多い

気を付けたい犬

若い犬や
免疫が落ちている犬感染症による咽頭炎は多く、なかで
も、ケンネルコフを引き起こすボル
デテラ菌が原因の咽頭炎が多いと
されています。免疫力が未熟な若い
犬、持病で免疫が低下している犬は
感染リスクが高いので気を付けて。

<ほかにも…>

●刺激物や有害なものを 吸い込むなど

《3週間以上続く、もしくは繰り返し起こる》

慢性タイプのおもな原因

●歯周病や口内炎、 口腔内腫瘍など 口の中の病気

●慢性鼻炎

●逆流性食道炎

気を付けたい犬

シニア犬

シニア期に入ると、基礎疾患を
もっている犬が増えてきます。
歯周病や口内炎、鼻炎など咽頭
周囲の炎症によって咽頭炎が
引き起こされることも。

●のどの構造が狭い

気を付けたい犬

生まれつきのどが狭い
短頭種や小型犬短頭種をはじめ、あごが小さいチワ
ワやポメラニアンなどの小型犬は、
骨格状のどが狭く、暑さや興奮で息
が荒くなったときなどに、のどの粘
膜がこすれて炎症が起きることも。

太っている犬

太ると首まわりに脂肪が付き、のど
が圧迫されて狭くなる傾向がありま
す。ふだんから呼吸が荒くなりがち
で、のどの粘膜がこすれやすかった
り、がっついて食べたフードで咽頭
が傷ついたりしやすくなります。おもな
症状

のどの違和感をあらわす症状が出ます。

初期に出やすい症状

- 白くネバネバした泡状のものを吐き出す
- えづきや空嘔吐
- 飲みこむ様子がいつもと違って不自然

<ほかにも…>

- のどがゼロゼロと鳴る
- 空ぜき
- ヨダレが増える
- 急性では発熱 など

悪化したときの主な症状

- 鳴き声が変わる
- 食欲低下
- 元気がなくなる
- 口臭が強くなる
- 水を飲んでもむせる
- 呼吸困難 など

<予防法>

太らせない、一気食いさせない、誤飲させないなど、
環境を整えることが大切です。

治療

抗生剤や炎症を引かせる薬で対処。
場合によってはネブライザー療法も。感染が疑われるケースでは抗生剤を使用し、咽頭粘
膜の痛みや腫れが強い場合はそれらを軽減させる薬
も使って治療します。炎症が軽度な場合は飲み薬で
対処しますが、飲み込みが難しい場合は、生理食
塩水と薬液を霧状にして吸いこむネブライザー療法
が有効です。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと**2号** (2ヶ月分) **無料!!**